



ユーモア4

榎本栄次

世光教会では役員会が開かれていた。「ヤクザの親分が洗礼を希望している」「信仰はあるのか」「教会に来たことは」「大丈夫か」「教会には一度も来たことがない」「入門講座を勧めては」原則論や、慎重論に同情論などが入り混じった議論になった。

日曜日の午後、私たち青年が近くの国立病院に教会の週報を約450床に届けていた。入院患者で長谷川長吉さんという人が受洗を申し出られた。ご自分の言葉で「わしはヤクザや。子分もいる」ということだ。背中いっぱいに入れ墨があり、子分が付き添いしている。奥さんの話によるととても恐ろしい人らしい。その彼の目に、配られてきた週報の「キリストはどんな人の罪も許されます」という言葉が止まった。

「これはどういうことか。説明してほしい。わしのような者でも許されるというのか」。

神学生であった私は、初め、なにか言いがかりをつけられたら大変と恐ろしかった。できることなら早くこの場を離れたいと願ったものだ。でも、罪の許しは嘘ですとも言えず、ただ知っている教義を説明した。

「イエスさまは十字架にかかって死なれました。それは罪を犯したためではなく、人々の罪を許すためです。罪人の身代わりとなられたのです。だから誰でもキリストを信じる人は一人も滅びないで永遠の命に入ります」。

こう言うと彼は急に泣き出した。「わしはこれまで悪いことばかりやってきた。わしらのことを忘八と言ってな、人として持つべき8つのこと、仁義礼智忠信孝悌をみんな忘れた者という意味や。そんなわしのために死んでくれたというのか。なんとありがたいことか。キリストを信じたい。救ってほしい」。

このおじさんは、なかなかの教養人らしい。尺八が上手で、譜面を見ながら讚美歌を吹いてくれた。

一週間後に訪ねるとその気持ちは更に深いものになっていた。以前の鬼瓦のような顔が優しいおじいさんに変っていた。奥さんは「優しくなりました。洗礼を受けさせてやってください。もう長くないのです」。

私たちからこの報告を聞いた牧師はすぐに長谷川さんを見舞ってくれた。彼に会い、受洗の希望を確認し、その信仰の純粹さに打たれた。

早速、臨時役員会が開かれた。不安なことはいっぱいあったが、反対する者はいなかった。「キリスト教のことや教会のことを何もわからなくてもいい。主による罪の許しが分かっていたら十分だ」。

こうして長谷川長吉さんの病床洗礼式が行われた。一週間後、彼は天に召されて逝ったのである。

1962年11月4日。その死顔は実に天使のようであった。世光教会の永眠者第一号である。

つづく

✧ なんどきですか ✧

・「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名」にご協力ください。

全国で3000万署名が呼びかけられています。5月21、22日と開かれた日本基督教団京都教区総会において、この署名に諸教会が「全身全霊をかけて取り組む」ことが決議されました。私たちもできる限り努力したいものです。セミナーハウスに寄せられている署名数は現在約600筆です。感謝。引き続きよろしくおねがいします。

・アメリカンフットボールの試合での日本大学の選手による違反行為が大きな問題になっています。なんとか勝ちたいという気持ちから起きた事件でしょう。加害学生の謝罪会見を見て深い反省の色と素直な姿に明るいものを感じました。過ちを犯した場合、事実をしっかりとして謝ることに勇気がいかに大切かを教えられます。それにつけても、監督らの偉い人の姿勢には失望します。国家レベルで嘘に嘘を重ねている姿と合わせて考えさせられます。

・北朝鮮と韓国の和解が成功するよう祈ります。歴史的なこの動きを揶揄したり、妨害したりする力に加担しないようにしたいと思います。核兵器のない世界へ、暴力ではなく、話し合いによる和解ができれば武器はいりません。武器のない世界へ大きな歴史の節目です。

投稿

きらら俳句

- そよ風に渡る緑の鴨川原 小久保枯骨
- 春雨を花卉に溜めて玉光る 榎本虚舟
- 青空を独り占めしてつばくらめ 松本茶香
- 萩焼の湯呑み下ろして新茶汲む 佐々木公女
- 草刈りて知る遊び田の広さかな 原 岳
- 添水打つ後の静けさ竹の秋 富永周豊
- 新緑やペタル休めて深呼吸 佐々木小次郎
- 生かされて今朝も目覚めて夏は来ぬ 星児

関西セミナーハウス活動センターへの賛助・寄付金

2018.4.1-4.30 順不同・敬称略

上條 美代子、山本 貴之、鳥井 清司、鳥井 操、柳井 一郎、シュペネマン クラウス、藤井 伸枝、林 律、浅川 具美、木下 壽子、川北 かおり、黒田 睦子、中村 信博、松岡 蓉子、李 善恵、吉中 直子、浦 晴子、相浦 和生、平林 喜博、浅田 涼子、早川 良彌、立石 昭三、多木 秀雄、高谷 泰市、公益財団法人京都YMCA、田中 義信、五十嵐 萬里子、南 和子、米澤 敏子、東 千代、山本 良昭、藤本 和子、安野 優美、廣瀬 芳之、多田出 佳代子、君村 千代子、佐々木 絃児、根岸 宏邦

ありがとうございました。

関西セミナーハウスの四季だより

夏山 蒼翠

関西セミナーハウス庭園担当 榎 廣光

北宋の画人 郭熙（かくき）の詞に

夏山の蒼翠（そうすい）として滴るが如し

という一節があります。山野の若葉が萌えて今にも滴がしたたり落ちそうな情景を表しており、きらら山荘境界も色あざやかな新緑一色の季節となりました。まさしく生命感あふれるひとときです。

また雨後の枝垂れもみじは一段と心惹かれるものがあります。雨あと、登る朝風が枝垂れもみじの若葉を通して写し出す鮮やかさは格別でまるで別世界に誘ってくれるようです。この美しさはカメラではなく、それぞれの記憶の中に留めておきたいものです。

比叡の山麓一体にはこれからしばらく野鳥や小さな動物たちの繁殖の時期を迎えます。早朝から色々な野鳥たちのにぎやかなさえずりで、耳を楽しませてくれます。なかでも、鶯のあの「ホーッホキェキョ！」の涼やかなうたごえです。鳥によって個体差もあり、年によって下手な年もありますが、今年の鳴き声はとて上手です。日本庭園を訪れた方も新緑のこの光景にうっとりで新たな発見のようです。これからしばらくさつきのシーズンですが、それが終わるとあのうっとうしい梅雨です。